

令和7年2月28日

中標津町議会議長 後藤 一 男 様

中標津町議会議員 平 山 光 生

研 修 報 告 書

以下の視察（研修）について、次のとおり報告します。

- 1 視察名 総務経済常任委員会道内視察
- 2 視察先 中札内村役場
- 3 視察日 令和7年2月3日（月）
- 4 視察事項 ふるさと納税
- 5 成果（具体的に）

中札内村は人口約3,800人で、返礼品に海産物がないながらも過去には13億円を記録したこともある村です。制度改正により金額に落ち込みがあるものの令和5年には7億6,151万円、令和6年度4億5千万円と本町の目標額以上の納税額があります。

本町との大きな違いとして挙げられるのは、ふるさと納税クラウドファンディング補助金の活用をしていることです。ふるさと納税の使い道としてプロジェクトを提示し、寄附金を募るものですが、過去実施した事業の中でも温泉施設は観光資源となっているばかりではなく、町民還元にもつながっているそうです。

本町としても、今後クラウドファンディング型のふるさと納税も検討しているとのことですので、事業拡大に町民も活用でき、企業誘致や移住等本町の課題解決につながるよう提案を重ねていきたいと思えます。

また、中札内村のふるさと納税者はリピーターが多く、リピーターの方には村長による手書きコメントを添えていると伺いました。やはり心が伝わるとさらに長期的なリピーターとなっただけののだなと感じましたので、本町でもぜひ取り組んでいただきたいと思えます。

- 4 視察事項 地域おこし協力隊インターン制度
- 5 成果（具体的に）

地域おこし協力隊インターン制度は総務省の制度としてもあり、2週間～3か月の期

間で地域活動を行うものですが、中札内村は独自の制度としてさらに期間を3か月延長して6か月まで活動でき、村出身者は住所地に関係なく応募可能なものとなっています。実際には大学生が休暇を活用しての応募が多いため6か月活動する人は現段階ではいませんが、村出身者の採用者も1名は実際に村役場に就職し、Uターンにつながる事業となっていました。

また、インターンの活動場所が観光協会や企業等本人の希望に沿った配置としているため、中札内村の知名度向上やイベントの取材に再来村するなど、交流人口の増加にもつながっていました。

本町においても、インターン制度を導入し、学生へのアンケート調査やふるさと納税返礼品等様々な所管の企画の際にPRしていく必要があると思います。



- 2 視察先 芽室町役場（Zoom）
- 3 視察日 令和7年2月4日（火）
- 4 視察事項 ふるさと納税
- 5 成果（具体的に）

芽室町は人口約17,700人、魅力は自然景観・農業・食・人ということで、中標津町と大変似ていて返礼品の主力は農作物の「とうもろこし」です。納税額は令和4年の2億7千万円以降、令和5年は4億5千万円、令和6年は6億円と急成長をしています。

- 要因として
1. 改革プランの再確認と運用体制の見直しによる役割・業務の明確化
 2. シフトプラス、観光物産協会と連携し事業者への情報交換・共有
 3. 新規返礼品の増と在庫の確保
 4. ポータルサイトの増
 5. 民間活力の活用（一部業務委託）でサイトページの魅力化
 6. 強力な広告と継続した「魅力発信」
 7. 特産品「スイートコーン」のキラークンテンツ化
- 以上「7項目の取り組み」の成果と分析を実施しているとのことでした。

また、2項目目においては毎月の目標と戦略の共有を目的とした「ふるさと納税定例会」を毎月開催、事業者と信頼関係構築するための「事業者会議」を開催し、「事業者ファースト」精神を持つことで、新規事業者開拓や返礼品登録事業者同士のコラボ返礼品等3項目目につなげていました。

そして、6項目目にある広報で最も重要視していることは、生産者や役場職員の顔を表に出すことで、寄附者から見てその町への信頼や親近感を与える方法だそうです。実際に文字よりも商品写真、商品写真よりも人が目にとまるので見ていてわくわくしますし、返礼品には町長手書きのお礼文が印刷されていて、寄附者の心をしっかりと掴んでいると感じました。

そして、地域活性化起業人の地域事業者の販路拡大を支援するシェフツアー事業と共同開発しているプロジェクト「ふるさとレストラン」は、芽室町の食材を一流シェフが調理したものを首都圏のレストランで食べられるもので、現在では14店舗造成し、寄附も順調に伸びているようです。

本町も人と人のつながりが深い地域です。現在の取り組みの推進と、中間事業者や全事業者との情報共有や信頼関係をさらに深めることで、まだまだ取り組めることはあると感じました。

また、期間限定となる農作物を受注発送していくためには、農協との連携も必要になってくると感じています。

4 視察事項 地域活性化起業人

5 成果（具体的に）

令和5年4月から“食でつなぐ。人を満たす。”を掲げている企業である株式会社ぐるなびの麓さん（函館市出身）が地域活性化起業人として着任されていて、交流人口・関係人口の創出・拡大を主務に食と観光の活性化の実現に取り組んでいました。

さらには食と観光領域における課題の明確化を行い、芽室観光物産協会の地域商品化、DMO化を目指していて、ふるさと納税返礼品の開拓、新規事業者提案のために1月に15件累計308件とコンタクトをとり、寄附額向上には様々な事業者との継続的な会話と提案が重要との結論に至ったそうです。そして、毎年ふるさと納税事業者との大感謝祭を開催し、相互の理解と団結力を深める場の構築を行い、食事券型返礼品やとうもろこしを使用したお土産の制作にも取り組んでいました。

また、観光においても観光ビジョン策定に関わり、「住む人も訪れる人も『いい気分』になれる観光」につながるフォーラムの開催や専門家派遣事業、意見交換会の開催などに取り組む、新たな地域観光メディアを有効に活用して食と観光のブランディングを行っていました。

本町も2月1日に地域活性化起業人として株式会社ネオキャリアの木下さんが着任されています。具体的な内容についてはこれからとなりますが、芽室町のように求めるビジョンと解決策を導き出し、全員が同じ認識を持って相乗効果を生み出せるよう各関係機関との懸け橋となっていきたいです。



- 2 視察先 音更町 北海道動物愛護センター道東センター
一般社団法人 ティアハイム十勝
- 3 視察日 令和7年2月5日(水)
- 4 視察事項 動物愛護
- 5 成果(具体的に)

ティアハイムは道東センターとして令和5年から契約をしていますが、契約上譲渡可能な犬猫しか受け入れられないとされていて、猫がメインとなる施設のため犬の受け入れはめったに行わないとのことでした。さらには、1年更新のため契約がいつまで継続されるかもわからず、犬舎を増やすこともできない状況となっていました。

また、動物愛護やペットの適正飼育等に関する普及啓発にはパンフレットの配布やSNSが有効で、パンフレット等を見て引き取り依頼の問い合わせも多いが、一般の方からは引き取りを行えない、野犬等の捕獲は自治体が担当でセンターでは行わない等できることが限られているとの現状を確認しました。

本町においては近年家畜被害が増えてきている野犬問題の一つとして、これ以上被害を継続させないためにも犬の保護ができる受け皿が必要であるけれども、中標津保健所の施設も飽和状態となることが多く、野犬の捕獲についても保護についても早急な整備が必要な状況となっています。

ボランティア団体の方の協力が大きな支えとなっていますが、道東センターとしての受け入れ態勢も含めて協議が必要になってくるのではと考えます。



- 2 視察先 弟子屈町役場
- 3 視察日 令和7年2月5日（水）
- 4 視察事項 ふるさと納税
- 5 成果（具体的に）

弟子屈町は人口約6,400人で令和5年の納税額は約70億円全国的にも毎年上位に入る町となっています。多くの要因として海産加工品の人気が高いことがありますが、海産加工品で約8割、約2割はメロンやマンゴー、旅行券で、2割でも14億で中標津町を大きく上回る額となっています。

また、体験型ふるさと納税や現地決済型ふるさと納税をいち早く導入されていますが、宿泊施設とカヌーやSAP、トレッキング等は定期的に寄附があるものの現地決済型の旅先納税については、商工会員となっている事業所で利用できるようにしていますが、現段階では寄附を募れていない状況でした。

本町でも現地決済型のふるさと納税に期待をしたいところでしたが、導入先についてももう少しデータ分析を実施し、多くの事業所との関係性だけではなく、空港を生かしたストーリー性のある観光のPRが必要かもしれません。

他にも新規返礼品を年3回募集し返礼品のリニューアルを行っていることや納期を1か月とするもヤマト運輸の倉庫を利用して1週間程で返礼品が早く届くことで感動を届ける取り組みは、寄附者を飽きさせない待たせない取り組みであり、リピートにつながっているのだと感じました。

本町においても返礼品に変化を求めている声も聴きますので、定期的なリニューアルや新商品の開発に注力が必要だと思います。

そして、弟子屈町は地域おこし協力隊の方が任期後移住され、ふるさと納税事業者登録している方が多く、その要因として地域おこし協力隊任期中の月1回のミーティングで出たアイデアは町を挙げて応援しているとのことでした。これまでも多くの移住者がいる弟子屈町ですが、町外から来た人に気に入ってもらえるようにまちづくりをしてきたという町長の気持ちや取り組みが今の弟子屈町を盛り上げているのだと感じました。

